

令和7年度 第2回 丸塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年9月12日（金） 13時30分から15時40分まで
- 2 開催場所 丸塚中学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、名倉 善郎、酒井 里江子、鈴木 厚子、
湯山 紀美代、青木 優衣、劉 志奈、
田嶋 節子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 尾上 弘
- 5 学校 渡瀬 益章（校長）、山下 孝二（教頭）、
田代 和人（生徒指導担当教諭）、石津谷 訓子（CS ディレクター）
- 6 傍聴者 1人
- 7 会議録作成者 CS ディレクター 石津谷 訓子
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、酒井委員を推挙し、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- （1）地域や家庭における性教育の在り方
- （2）規範意識の高揚に対する手立て

10 会議記録

司会の教頭山下から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）地域や家庭における性教育の在り方

生徒指導担当の田代より、文部科学省の資料説明と丸塚中の事例の発表があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 必要な教育だと思う。外部の講師を招いたらどうか。（田嶋委員）
→ サポートセンターの方に、二学年と発達教室に対して年2回、話をして頂いている。（山下教頭）
- ・ 性教育は、恥ずかしいとか抵抗があるかもしれないが、大切なことなので、家庭だけでなく学校でも授業の回数など増やしてほしい。（田嶋委員）
→ 現時点では、保健体育の授業で全体に指導している。トラブルが起きてしまっ

た生徒に対しては、その親も含めて、サポートセンターの方に指導して貰っている。

(田代)

- ・ お洒落をしたいがお金がない子が、小遣い欲しさにパパ活をしたりする。マッチングアプリなどで、知らない人と出会うことが当たり前になってきている世の中で、18歳未満の規制をかいくぐって利用することもあるので注視して行かなければならない。(青木委員)
- ・ 男女で心の成長に差がある為、距離感の違いがトラブルになったりする。(劉委員)
- ・ 性教育のカリキュラムは学年によって決まっているだろうが、情報モラルのカリキュラムはどうなっているか。(稲垣委員)
 - 業者の方を呼んで講義をしてもらったり、学年毎に生活指導の教員が子供に響く方法を模索しながらやっている。(田代)
 - 教育委員会の指導課が事例を挙げながら、少なくとも年1回は講座を開いている。例えば個人情報などをSNSに載せない等、生徒は知識として知らないわけではなく、知っていてもこれくらいならと軽い気持ちでやってしまう。(渡瀬校長)
- ・ 結果的にトラブルに巻き込まれてどうなったか等、危険な事を伝えていかないと、難しいと思う。(稲垣委員)
- ・ 実際問題、地域の見守りは難しい。家庭と学校が連携をとって、生徒の兆候を出来るだけ早く掴む事が大切だと思う。生徒同士の方が情報をキャッチしているだろうから、その子の周りの子が気付かないか。(名倉委員)
- ・ パパ活のような年上の人と交際している子に対して、周りの子は危ないと思うよりも、羨ましいと感じる子もいると思う。また、共働きの家庭も多いので、子どもの兆候に気付かない親もいると思う。(青木委員)
- ・ お祭の見回りなど、学校から地域へ要望があれば対応して行くが、SNSで知り合った関係かどうかは見ただけでは分からないと思う。(田嶋委員)
- ・ 未成年を車に乗せるのは犯罪ではないのか。乗った生徒は、犯罪に加担したことにならないのか。(鈴木委員)
- ・ 子供がぶらっと寄れるような憩いの場所があればいい。(田嶋委員)
- ・ パパ活などで得たお金で買い物をし、持ち物が変わってきたり、友達に奢り出したり、家庭で変化に気付いて行かなければならない。(稲垣委員)
- ・ 少し前までは、部活動も盛んで子供達は忙しかった。親も部活の父母会で顔見知りになり、不安を感じる事はなかった。今は部活動も自由で、スマホを持たせている家庭も多く、時間もあるから地域で子供たちが忙しくなるような場所を提供できれば良い。(鈴木委員)
- ・ 子供もそうだが、親も危機感がない。うちは関係ないと思っている意識の親もいると思う。(湯山委員)
- ・ 来年度の教育講演会でこのテーマにしたらどうか。子供がどういったことを学んでいるかを知ることができるし、親への性教育にもなる。(鈴木委員)
- ・ 教育講演会の日程だが、その日に部活動の大会などがあると、参加したくてもで

きない人もいる。良いお話が聞けるから、学校全体で参加できるような体制と雰囲気を作って欲しい。(湯山委員)

- ・ 参観会や懇談会の時に、子供が受けた授業の映像を流したりすれば、親も子供に指導し易くなるのではないか。(鈴木委員)

(2) 規範意識の高揚に対する手立て

田代から、校則緩和や主体性、規範意識の現状について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 昔も基準は曖昧だった気がする。親に教えられ、親を見ながら身に付けた。
(田嶋委員)
→ 生徒の常識と、学校の常識に差がある。生徒が正しい判断ができない。小さいことだが、みんなで使う物に傷をつけるなど、罪の意識を持たずにやってしまう。
(山下教頭)
- ・ 集団生活なので、ルールを守ってない事に対しては、ルールがある事によって、生徒も守れると言う事を強く伝えて、そこは厳しく指導して欲しい。(酒井委員)
- ・ 子供の遊び方も、昔はゲームもそんなになかったから公園で遊んだりして、そこで自然と人と人との関係性を学んできた。メディア浸けになっていると、自分本位になったりし易い。団体競技をしている子は、周りが見えていて周りに配慮出来る子が多い気がする。(劉委員)
- ・ 大人が持っている常識を、子ども達に伝えても受け入れられないだろうから、「良識」という言葉を使って伝えて行ったらどうか。(田嶋委員)
- ・ 幼児期からゲームや戦いごっこをしている。保護者もやらせていれば自分のことができるので、今の保護者の考え方も違うと思うし、その意識を変えることはなかなか出来ない。(湯山委員)

○ その他報告事項等

学校支援コーディネーターの田嶋委員から、11月21日(金)に1年生を対象に認知症講座を開催する旨の報告があった。また教頭山下から、次回運営協議会は令和7年11月18日(火)、第4回運営協議会は令和8年2月17日(火)に開催予定である旨の報告があった。